

80周年記念事業を終えて

80周年記念事業実行委員長

1993年卒 三田村 宏明

去る9月3日の土曜日、我が同志社大学体育会航空部の80周年記念事業を執り行いました。準備にご協力いただいた皆様、並びに当日お忙しい中ご出席いただいた皆様、誠に有難うございました。

私は、航空部卒業以来、教官として学生と接する機会には恵まれていましたが、平成9年以降は東京勤務だったこともあり、翔友会の活動には貢献できていませんでした。そのような中、3年前から大阪で単身赴任となり、「せめて関西在住の間は、翔友会にも貢献したい」と考えていたところ、大久保会長から80周年記念事業準備委員長の大役を仰せつかりました。

どのようなイベントを行えば翔友の皆様喜んで頂けるか、思案しておりましたが、真っ先に思い浮かんだのは「翔友の皆様に、懸命に頑張っている学生の姿を見て戴きたい」ということでした。

私が考える翔友会の目的は、OBOG間の懇親、及び現役部員の支援です。航空部活動の原点である滑空場で、仲間との再会を果たすことで、より一層懇親を図るとともに、翔友の皆様にも今の現役学生の置かれている環境を理解していただき、頑張っている姿を見ていただくことが重要と考えたのです。

案内状を出させていただいた当初は出席の返信が少なく、「本当に皆さんに木曾川まで来ていただけるのか」という不安もありましたが、平成以降に卒業された皆さん宛に木曾川での訓練風景付きの暑中見舞いを送らせていただいたこともあり、最終的には遠方での開催にもかかわらず、多くの皆様に出席いただきました。

当日は山口部長先生にもお越しいただき、都合がついた43名の翔友の皆様、学生13名の総勢約60名で我が航空部の80周年を祝うことが出来ました。特に、同期6名のうち、連絡のつく5人全員が参加してくれて、改めて同期のありがたみを感じました。

記念事業は、「宿舎、訓練状況視察」「80周年祝賀会」の2部構成にしました。

幸い好天に恵まれ、木曾川宿舎に続々と出席者が集まってきましたが、瀬川OB（H7卒）、水谷OB（12卒）等に協力いただいたお陰でスムーズに視察することができました。

卒業されてから初めて滑空場にいられた方も多く、綺麗になった宿舎や、トレーラーでの機体搬送、TOSTの2連ウインチ等、初めて目にする機材等に興味津々のご様子でした。

何よりも嬉しかったのは、皆さんがランウェイで目を輝かせておられたことです。思い出話にも花が咲き、学生が元気に訓練を行っている様子や、75周年の記念事業として導入したASW-28が飛行する雄姿をご覧いただくことが出来ました。また、木曾川滑空場を立ち去る際には、その開発にも尽力された、故・北尾先輩の御霊に皆で敬礼させていただきました。

訓練の視察をご了解いただいた田口先輩、宮地先輩、並びに協力してくれた学生の皆さんに心より感謝申し上げます。

木曾川滑空場を出た我々一行は、岐阜羽島近くのホテルに場所を移し、祝賀会を行いました。祝賀会では、山口先生をはじめ、諸先輩から祝意をお示しいただきました。そして、メインイベント

の80周年記念講演では、田口先輩から、現在の学生が置かれている環境や、関東支部、東海関西支部の現状、それを踏まえて今後同志社が強くなる為の方策等、示唆に富んだお話を頂きました。田口先輩には、学連のお立場もある中で、同志社航空部への愛情に満ちた貴重なお話を伺うことが出来ました。翔友会、教官が協力して同志社航空部強化に努めることで、恩返しさせていただきたいと思います。

普段は教官として訪れている木曾川滑空場ですが、参加いただいた皆さんの笑顔を拝見し、自分自身、新鮮な気持ちを取り戻すことが出来ました。また、素晴らしい環境で、素晴らしいスポーツを、素晴らしい仲間と共に行える幸せを、改めて感じることができました。

翔友 31号で「部存亡の危機」との記事がありました。危機を否定するつもりはありませんが、私は、自分の学生時代から現在に至るまで、学生は一貫して未熟だと感じています。自分が年齢を重ねた分、学生と今の自分の考えには大きな「ギャップ」を感じますが、決して自分が学生の頃、完璧だった訳ではありません。

空を飛ぶという畏れ多いスポーツにおいて、安全を担保するためには、我々教官が責任を負って、万が一のリスクを一つ一つ排除する必要があります。「未熟」で伸びしろのある学生達が安全にグライダーを楽しめるよう、また、その延長として、大会で良い成績を収められるよう、引き続き指導に努めて参る所存です。

最後に、今回の80周年記念事業に関わってく

ださった全ての皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

今回の事業が、より多くの翔友の皆様に滑空場来ていただくきっかけになること、およびより一層の学生への支援に繋がることを期待しています。

同志社大学体育会航空部80周年記念事業決算報告

収入の部		支出の部	
祝賀会会費(43名)	215,000	記念事業・祝賀会案内出欠はがき <small>※翔友会費納入依頼に同封のため郵送費は不要</small>	13,000
翔友会からの援助金	145,760	祝賀会会場費	347,328
		各種手数料	432
計	360,760	計	360,760

80周年記念事業準備委員会
委員長 三田村 宏明